3）当初，非典型的ループス腎炎と判断した，MPO-ANCA 関連腎炎の1例

佐伯　敬子・長谷川　尚
渡邊　　武・黒田　　毅
伊藤　　聡・上野　光博
西　　慎一・中野　正明
荒川　正昭　（新潟大学第二内科）

症例：52歳　女性．現病歴：1992年8月の検診ではじめて血尿，蛋白尿を指摘された．10月より発熱，下腿浮腫，膝関節痛が出現し，抗核抗体，抗 DNA 抗体が陽性であったことより SLE を疑われ，1993年5月当科に入院した．血沈促進，白血球減少と軽度貧血があり，抗核抗体陽性であった．抗 DNA 抗体，抗 dsDNA 抗体陽性だったが，その抗体価はあまりたかくなく，補体は正常だった．高度の血尿，蛋白尿があり，GFR 22.9 ml/min と腎機能低下をみとめた．ループス腎炎の診断で腎生検をおこなったところ約70％の糸球体に半月体形成を認め，間質の広汎な細胞浸潤を認めた．蛍光抗体法では補体の沈着は認められず，電顕でも MTS や多彩な領域の deposit 沈着を認めないなど，活動性のループス腎炎としては非典型的な組織であった．のちに保存血清で MPO-ANCA を測定したところ非常に高値であった．

考案：本例の腎炎は補体の沈着を認めず，血清補体も正常であり，immune complex の関与がつよい腎炎というよりは，SLE の要素をもった症例に MPO-ANCA 関連腎炎が overlap してきたものと考えられた．

4）ANCA 陽性例の臨床的検討
—特に治療に関して—

佐藤健比呂・鈴木　和夫
大井　秀美・小林　　理
丸山雄一郎・阿部　　惇　（新潟県立中央病院内科）
村川　英三
関谷　政雄　（同　病理）
島田　久基・上野　光博
西　　慎一・荒川　正昭（新潟大学第二内科）

当科で経験した MPO-ANCA 陽性9例の臨床経過，治療について，透析に導入した4例（Ⅰ群），慢性腎不全非透析2例（Ⅱ群），腎機能正常3例（Ⅲ群）に分けて検討した．

Ⅰ群は女性3例，男性1例で，年齢は64～78歳．3例に腎生検を行い，いずれも半月体（Cres）がみられた．ステロイド治療を行ったのは肺胞出血を合併した1例のみで，この例を含めて，死亡は2例であった．他の2例は現在も維持透析中である．

Ⅱ群は女性1例，男性1例で，年齢はそれぞれ，69，71歳．血清 Cr は，2.6，2.4 mg/dl で，腎生検では，ともに Cres がみられた．両者とも，ヘパリンついでワーファリンで治療したが，現在まで腎機能の増悪はみられていない．

Ⅲ群は女性3例で，年齢は60～64歳．1例に腎生検を行い，Cres がみられた．全例，臨床的にはリウマチ性多発筋痛症（PMR）と診断し，ステロイドで軽快した．現在まで，腎機能は正常である．

結語：MPO-ANCA 陽性の慢性腎不全では，抗凝固療法のみで，長期に腎機能悪化がみられない例がある．PMR の中に，MPO-ANCA 陽性の一群の存在が示唆される．

Ⅱ．特　別　講　演

「血管炎症候群の臨床」
—ANCA を中心に—

杏林大学医学部第一内科主任教授
長　澤　俊　彦 先生